

候故右専門校之名を開成学校申之先年御覽被成校ハ即今外国语
学校ニ相成候是ハ重ニ普通科を修メ専門ニ入之下稽古所也○嶋
田より書状投与致候得共此度ハ返報致兼候間宣御伝語奉希候○
大矢エも年始状迄ハ別段文通致兼可申候間右同断奉願上候○例
年之通廿五日より休課ニ相成一月八日迄ハ閑暇ニ候○県下追々睡
眠を開候趣誠喜敷候何卒私共帰県致候迄ニハ貧困之風を脱し守
古之僕(アヤシ)を免候様県官四民之協力奉遙祈候御母様其他之御病人如
何ニ御座候や奉伺上候

御尊父様

武夫拝

46 明治6年12月14日 菊池長閑宛

第弐拾壹号 十二月十四日 (長閑注記)

(長閑注記)
〔十二ノ廿一日達し
〔戌一月四日第一号ヲ以返書郵便へ出し〕

九日達す二十号拝読おく濃一条ニ付御報知誤認致候趣甚忽々恐
入候然し是にて大ニ安心罷在候尚此後御恵省被下度候教料未納
之分拝借ニ可相成様願置候所今ニ有無之沙汰無之併官費一件ニ
付給与金之内ニ算入致積と相見得候何れニも此義ハ御懸念被下
間敷候那珂エ尊書今日相届可申候邸ハ一ヶ所ニ御座候先日迄小
石川伝通院ニ借居候所牛込中町廿一番地ニ転移致是ハ則ち木戸
之世話ニテ求候自宅ニ候○法学トハ法律学ニテ國法民法商法經
濟等縦而法学之付候学科と可申候本科とハ予科と區別し眞ノ法
科を修候者予科ハ本科ニ至まで之下拝即予備科と申ても可なり
当校書生専門科を修る日浅して西洋学校ノ本科之比ニ非ス故ニ
此度改て予科等定メ私共予科一級ニ可成候○開成学校トハ一番
中学之改称ニ候先達専門学校相始次而新築之齋舍を専門校ニ致